

## 課題NO.5

# 「シャインマスカット」の産地形成に向けた 生産・販売力向上

活動期間：令和3年度～令和4年度

対象者：JA新みやぎあさひなぶどう部会 中核的農家5人（同部会員20人）

チーム員：宇田川久美子、守屋明良、山田有子



# 1 課題の背景・ねらい

## 〈背景〉

- ・ JA新みやぎあさひなぶどう部会は平成28年に設立され、部会員25名、ぶどう栽培面積は約1haとなっている。「シャインマスカット」はほとんどの部会員が導入しているが、大半は試作的な生産にとどまっている。
- ・ 中核的農家5人は、樹形が概ね完成しており、今後は新たな増収・省力技術を導入することで生産量向上が見込める。出荷販売はJAを通じた産直や個別販売が中心となっている。樹齢の経過や面積拡大による生産量増加を見据え、実需者ニーズを捉えた販売戦略の構築と戦略に沿った栽培管理技術の習得が必要である。

## 〈ねらい〉

- ・ 増収・省力技術を習得し、生産量が増加する。
- ・ 販売戦略に沿った栽培管理が行われ、販売量が増加する。

## 【令和3年度 定性的目標】

- ・ 増収・省力技術を理解する。
- ・ 販売戦略が検討され、新たな出荷形態による試験販売を行う。

## 2 活動内容

### (1) 生産技術の高度化・省力化支援

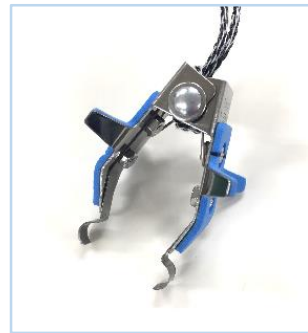
#### ① 展示実証ほ・調査ほの設置 (4~10月)

増収・省力技術、小房ぶどう栽培管理技術、粒ぶどう栽培管理技術

	期待される効果	内容
増収技術	収量30%増加	光反射シートの敷設 (樹形完成樹)
省力技術	花穂整形作業時間25%削減	花穂整形器の使用
小房ぶどう栽培技術	消費者ニーズ(手頃な価格)への対応	400g程度の房づくり
粒ぶどう栽培技術	販路拡大、摘粒作業の省力化	テキライグシの使用



光反射シートの敷設



花穂整形器



粒ぶどう (イメージ)



テキライグシを使用した  
摘蕾作業

#### ② 栽培講習会の開催

# 2 活動内容

## (1) 生産技術の高度化・省力化支援

### ③巡回指導



### ④栽培管理チェックシートの作成・活用

令和3年度シャインマスカット栽培暦に基づくチェックシート				※実施した時に□にチェックし、実施日を記入 開花始め及び満開期の月日を記入		
No	チェック項目	作業時期（生育状況等）	内 容	チェック	実施日	備考
1	芽かき	展葉5枚の頃	強く伸びた芽や弱い芽をかき、1芽座に2新梢残す。	<input type="checkbox"/>	月 日	
2	(フルメット液剤の花房散布)	展葉6枚から8枚の頃	2ppmを花房に散布する。※定植5年目までの樹とする。	<input type="checkbox"/>	月 日	
3	新梢誘引	展葉9枚の頃	主枝と真上に誘引、主枝片側1mに5～6本とする。			
4	光反射シート敷設	開花前	樹形が完成した樹を対象に、主枝下地面に光反射シートを敷く。			
5	病害防除	開花直前	スイッチ顆粒水和剤2000倍液を散布する。			
6	新梢の摘心	開花直前～開花始め	葉数が10枚程度になるように新梢の先端を摘心する。弱い新梢はしない。	<input type="checkbox"/>	月 日	
7	副梢の摘心	副梢発生後随時	房基は3枚、房先は1枚残して摘心する。着果させない強い新梢から出た副梢は1枚残して摘心する。摘心は満開50日後まで随時実施する	<input type="checkbox"/>	月 日	
8	アグレット液剤処理	満開予定日14日前～開花始め	1000倍液を花房に散布する。	<input type="checkbox"/>	月 日	
9	開花始め				月 日	※必ず記録する。
9	花穂整形	1樹で1花穂が開花始めてから	房先4.5cmを残す。主枝1mあたり12果房程度とする。	<input type="checkbox"/>	月 日	
	満開日				月 日	※必ず記録する。
10	ジベレリン処理（1回目）	満開から満開3日後まで	ジベレリン25ppm+フルメット2～5ppmで花房を浸漬する。	<input type="checkbox"/>	月 日	
11	軸長の調整	第1回ジベレリン処理5日後	軸長を6cmに調整する。	<input type="checkbox"/>	月 日	
12	病害虫防除	落花直後	ファンタジスタ顆粒水和剤3000倍+スカウトフロアブル2000倍液を散布する。	<input type="checkbox"/>	月 日	
13	ジベレリン処理（2回目）	満開10日から15日後	ジベレリン25ppm液に花房を浸漬する。	<input type="checkbox"/>	月 日	
14	最終着房数調整	第2回ジベレリン処理5日後	主枝1mあたり7～8房程度とする。（※光反射シート設置園では9房/m）	<input type="checkbox"/>	月 日	
15	軸長調整と摘粒	摘房作業終了後	軸長は支援軟12個+先端、1房40～45粒とする。	<input type="checkbox"/>	月 日	
16	病害虫防除	袋かけ直前	オンリーワンフロアブル2000倍+モスピラン顆粒水溶剤4000倍液を散布する。	<input type="checkbox"/>	月 日	
17	袋かけ	仕上げ摘粒後	高温時は避けて曇りの日など気温の低い日に実施する。	<input type="checkbox"/>	月 日	
18	かん水	果粒軟化期以降	一度に大量にはせずこまめに散水する。	<input type="checkbox"/>	月 日	
	収穫始め				月 日	
	収穫終わり				月 日	
19	病害防除	収穫後	ICホルダー-66D100倍液を散布する。	<input type="checkbox"/>	月 日	
20	落葉処理	収穫後年内	落葉を集めては場外で処分する。	<input type="checkbox"/>	月 日	

このチェックシートはせん定終了後に回収させていただきます。  
これを基に1年間の作業内容を「振り返り」を翌年度の栽培に  
活用します！ ～1年間何時、何をしたら記録が大事～

## 2 活動内容

### (2) 販売戦略検討支援

#### ①販売方法現状把握



生産者へのアンケート及び聞き取り調査



JA販売担当との打合せ

#### ②販売会開催に関する打合せ

(10月開催、場所はJA新みやぎ元気くん市場仙台南店 (太白区茂庭) を予定)

# 3 これまでの活動成果

## (1) 生産技術の高度化・省力化支援

- ・2名の生産者は、増収技術の次作での導入に前向きである。
- ・3名の生産者は、省力技術の導入により作業の効率化につながった。
- ・小房ぶどう及び粒ぶどうの栽培管理技術の確立は、実需者ニーズに対応しうるとして期待されている。
- ・栽培管理チェックシートの活用は適期作業管理に有効であると評価を得た。



増収技術（光反射シートの敷設）の指導の様子



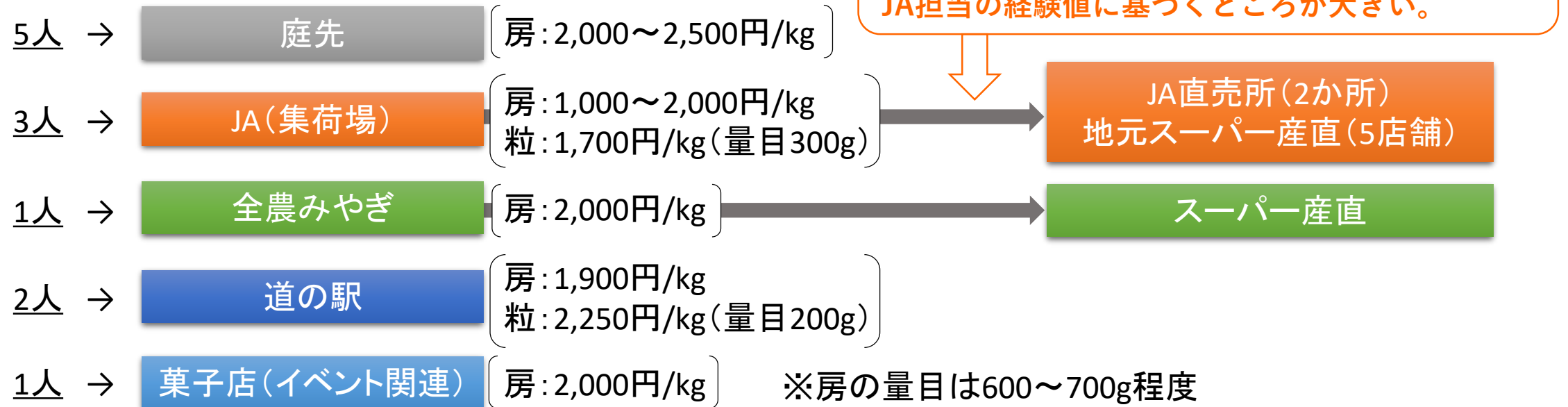
省力化技術（花穂整形器の使用）の指導の様子

# 3 これまでの活動成果

## (2) 販売戦略検討支援

- ・生産者5人の令和2年産の販売量、方法、形態、価格について把握した。
- ・1名の実産者は粒ぶどう販売に関心を持っている。
- ・JA経由の直売所、産直への出荷物の振り分け方法について把握した。

### 生産者5人のR2販売状況



# 4 今後の対応

## (1) 生産技術の高度化・省力化支援

- ・ 増収技術の実証と生産者の技術習得に向けた指導
- ・ 小房ぶどう、粒ぶどう栽培方法の確立と生産者への情報提供
- ・ 作の振り返り支援  
チェックシートを活用した栽培上の課題の把握と改善策の検討
- ・ 実需者ニーズに沿った栽培管理のための部会栽培暦の改訂

## (2) 販売戦略検討支援

- ・ 販売会の開催及び消費者ニーズ把握のためのアンケート調査実施支援、産地PR支援
- ・ JA経由の産直出荷先における実需者ニーズ調査
- ・ 販売方法の比較表（価格、メリット・デメリット等）の作成
- ・ 出荷反省会の開催支援及び次年度の販売方法検討支援